

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475600183	事業の開始年月日	平成12年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	医療法人 新光会		
事業所名	みのりの家		
所在地	(215-0021) 神奈川県川崎市麻生区上麻生6-29-15		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成23年12月23日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1475600183&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は小田急線柿生駅から徒歩4分、駅前商店街の先にあります。商店街の方々の活動に参加し、地域の方々との関係を深めています。
開設後11年以上を経過し、グループホームの長い歴史の中で、利用者一人ひとりを年長者として敬い、利用者と職員が相互に支え合う関係作りを進めています。
季節の行事や習字、大正琴、フラワーアレンジメント等、余暇活動も充実させ、楽しみ事が多くなるよう心掛けています。
同じ建物の3階にある同一法人の訪問看護ステーションと連携して24時間の医療連携体制をとっており、ご利用者に安心して頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年1月25日	評価機関 評価決定日	平成24年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小田急線「柿生」駅南口下車、駅前商店街を抜けて、徒歩4分の所にある事業所です。コンビニや行政の出張所などがすぐ近くにあり、利便性に優れています。近くの川では、大きな鯉や鴨が泳いでおり、散歩には最適です。3階建のマンションの1階部分が「みのりの家」です。

<事業所の優れている点>

地域とのつながりを大切にしています。

すぐ近くの柿生連絡所を会場として、柿生アルナ園地域包括支援センター主催の「柿生コロナーズ」という地域住民のための転倒、骨折予防&茶話会に毎月参加をして、地域の人と交流をしています。商店街が中心となって、地域活性化のための「柿生ナウ」という活動の一環としてのゴミ拾いに参加したことで顔を覚えてもらえ、地域とのつながりが深くなりました。普段の散歩でも近所の人と仲良くなり、手作りの縫いぐるみや鈴虫を頂いたり、近所の方といい関係が築けています。同じ法人経営の訪問看護ステーションが同じマンションの3階にあり、24時間の医療連携体制を取っており安心となっています。

<事業所の工夫点>

筋力保持や体重増加をさけるために、体操に力を入れています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みのりの家
ユニット名	

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ご利用者一人ひとりを年長者として敬意心地よい生活を提供すること ・これまでの暮らしが継続されるよう一人ひとりの生活を大切にすること ・ご利用者とご家族の希望を尊重すること 以上を理念とし、常に見えるところに掲げることで共有とケアの実践につなげている	理念は、廊下など目立つ所に貼ってあり、職員一人ひとりがよく理解をしています。毎月のミーティングの時など、折にふれて理念を確認しています。利用者を年長者として敬意、利用者中心の生活となるように、理念を介護につなげています。	積極的に地域と交流を持っている事業所なので、もう一步踏み込んで、地域密着型サービスという観点を理念に盛り込むことも期待されま
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に入会することで地域の情報を得、地域活動に参加している。また、地域の体操教室やゴミ拾い活動に参加したり、地域の方々にも事業所の行事に参加してもらえよう呼びかけ交流している。	地域の商店街主催の「柿生ナウ」という活動の中で、事業所もゴミ拾い活動に参加して、地域とのつながりが深まりました。地域の盆踊り大会やどんと焼きなどにも参加しています。日常的な散歩を通じても地域の人と仲良くなっています。事業所の行事にも地域の人に参加しています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者が地域の体操教室やゴミ拾い活動に参加することや、逆に地域の方々に事業所の運営推進会議などに参加してもらうことで認知症の方への理解を深めて頂ける様に求めている。区内の実習を受け入れ、支援の方法等を学んでもらっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の運営状況を報告している。また個々のサービスの取組みについても担当者が説明し、意見や要望を出してもらえようように取り組んでいる。	3ヶ月に1回、たくさんの方が参加しやすいように、事業所の行事の後に行われています。地域包括支援センター職員や、地域住民、家族、職員が参加しています。事業所の取組みなどを報告し、意見や要望が出しやすいようにテーマを決めて参加者に投げかけています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎市主催の各種研修会に職員が積極的に参加し、ケアへの取組みを発信している。空室状況等について連絡を取り合い、地域の状況も情報を提供して頂いている。	麻生区の地域包括支援センターとは、密に連携を取っています。近くで行われる「柿生コロナーズ」には利用者と共に参加しており、事業所の実情も理解してもらっています。地域包括支援センター主催のネットワーク会議に参加し、情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束を行わないケアの意義について学び、それを実践するように取り組んでいる。玄関は状況を見て日中の一部の時間帯に鍵を開けているが、その時間を長くできるよう、より一層の努力が必要だと思われる。	職員全員が、身体拘束の弊害を理解しており、身体拘束を行わない介護に取り組んでいます。転倒しやすい利用者には、かけ布団やベッドの頭部にある柵に鈴をつけ、起き上がるとわかるように工夫をして見守りや支援をしています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修において全ての職員が高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持っている。契約書に暴力や虐待の無いことを明示している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修において全ての職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。必要に応じて家族への情報提供や活用に向けての支援を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、重要事項説明書、契約書を明示し管理者が説明して理解を図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者個々の能力に合わせて、日常のサービス等に対する思いや意見を表す事ができるように支援している。運営推進会議や面会カードで意見等を表せる機会を設け、運営改善に活かしている。重要事項説明書の中に法人内や公的機関の相談窓口を明示している。	利用者には、 <input type="checkbox"/> はどうか、という問いかけではなく、 <input type="checkbox"/> と <input type="checkbox"/> とどちらがいいですか、という二者あるいは三者から選択してもらうような問いかけをして、より利用者の要望に近づける努力をしています。家族には、面会カードの「感想・意見」欄に書いてもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入退居や職員採用、ケアの方針について等、毎月のミーティングで全職員が発言する機会を作り、運営に反映させている。	毎月のミーティングでは、利用者のケアや、運営に関する事など、全職員で話し合います。そして出された意見は検討されます。その中で出た意見で、色々な対応について統一されていなかったのですが、検討した結果、マニュアル化されより分かりやすく改善されました。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に則して労働条件を整えている。年二回健康診断を実施して、職員の心身の健康状態が保たれるよう配慮している。また、個々の状況を把握し、意見や要望を尊重してくれている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を毎月行ったり、川崎市主催の研修や、県グループホーム協会の研修に業務の一環として参加できる体制となっており、職員が交代で参加している。外部での研修内容はミーティングで報告し、職員全員のスキルアップにつなげている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム協会に加入し、各研修に参加することで他のホーム職員と交流の機会が持て、相互の質の向上につながっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談の過程から、家族のみでなく出来るだけ本人にも見学してもらい、又職員が家庭訪問を行い、本人の困っていることや不安なことをよく聴き、思いを受け止めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の過程において家族から丁寧に過去の話、現在の生活など詳しく聴く機会を持っている。また、家族の関わり方など、家族の思いを十分に聴く様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや担当ケアマネジャーと連絡を取り合い、ホーム入居のみを優先に考えることなく、必要なサービスを見極めて対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は年長者である利用者を敬い、共に過ごし支えあう関係を築いている。個々の有する能力を把握し、得意分野を活かせる場面作りに配慮している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を支援していくために、家族の役割は大切であることを伝え、家族の意見や要望も聴きながらより良い関係作りに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた人間関係を把握するように努めている。通える範囲であれば馴染みの場所にも行けるように支援している。	利用者を取り巻く人間関係は、本人や家族に聞くなどして把握する努力をしています。近所の人や友人が訪ねてくることもあり、時には一緒に食事に出かける利用者もいます。毎月、家族の付き添いで、行きつけのサロンに行ってヨガをしてくる利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや家事活動等で利用者同士が交流する機会を日常的に作り、支え合う関係作りに努めている。コミュニケーションを取ることが難しい方には職員が間に入り孤立することがないようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も転出先に様子を尋ねたり、本人にとってより良いサービスが提供されるよう、家族の相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言動や表情、しぐさから一人ひとりの思いや希望の把握に努め、職員全員で情報を出し合いアセスメントし、ケアプランに活かしている。	部屋やお風呂で職員と二人だけになった時など、利用者の思いなどが言いやすい雰囲気を作って、思いや意見などを聞く努力をしています。出された意見、思いは全職員で情報を共有し、介護に活かしています。家族に聞いたり、表情や行動からも思いを押し量っています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて入居時に詳しくアセスメントをしており、個々の生活習慣を大切に、出来る限りこれまで同様かそれに近い生活が出来るように支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、体温・脈拍・血圧測定の実施チェックを行い記録している。個別の記録チャート、申し送りのための連絡ノートに生活の様子を記録して、現状の把握、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングにて利用者全員の個別検討を行い、本人や家族にも希望を聴きながら、担当職員が生活援助計画(介護計画)を作成している。</p>	<p>訪問診療医や看護師の意見を聞きながら、管理者と担当職員を中心に素案を考えます。さらに職員全員で、利用者本位に検討し、現状に即した介護計画を作っています。6ヶ月に1回見直しますが、変化のある時はその都度見直しをかけます。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にチャートを作り、日々の生活の様子やケアに関しての記録を残し、情報の共有、介護計画の見直しに活かしている。ケアプランに沿ったケアを行った際には赤字で記載し、モニタリングの際に振り返り易く、分かり易い記録となるよう工夫している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ニーズの応じて利用者の短期入所を行い、次の適切なサービス利用へスムーズにつながるよう支援する等、その時々に応じた個別サービスを提供できるように努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方にボランティアとして、支援していただいている。地域包括支援センターが行っている体操教室や、地域の若い世代のボランティア活動に参加し、楽しい時間が持てるよう支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診経過を把握し、かかりつけ医や希望する医療機関で医療が受けられるよう支援している。受診時には健康状態の記録などを通して情報を提供し、医師より生活面や服薬に関する支持を受けられるようにしている。</p>	<p>以前からのかかりつけ医を継続できます。事業所の提携医は2週間に1回往診があります。事業所の3階にある提携の訪問看護ステーションからは、週に1回看護師が来てくれます。この訪問看護ステーションとは24時間連携が取れるようになっています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している訪問看護ステーションと医療連携体制を取っており、毎週定期的に看護師の訪問を受け、相談や指導をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には関係者と相互に情報交換を行い、適切な医療を受け、早期回復が図られるよう支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で重度化した場合に事業所内で出来ること出来ないことを明示している。事業所内で出来ないことに関しては、次のサービス利用につなげられるよう地域の関係者と連携を図っている。	契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所内で出来ること出来ないことをはっきりと説明し、理解を得ています。重度化した場合には、話し合いを持ち、地域の関係者と連携を取りながらより良い支援につなげています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内研修を行い、実践力を身につけるよう努めている。緊急時のマニュアルを作成し、迅速に落ち着いて対応できるよう努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月ホームで避難訓練を行い避難経路、消火器、懐中電灯の確認をしている。非常用食料、水を備蓄している。年1回は消防署立会の防災訓練を行っており、消防署は利用者の身体状況やホーム内の非常口を確認している。	毎月避難訓練を行っています。玄関を入った廊下の棚に防災ずきんが置いてあります。年に1回は消防署立会の夜間想定の方針訓練を行っており、水消火器の訓練もしました。食料や水の備蓄もあります。火災通報装置は近々取り付ける予定です。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬うという理念を基に、言葉遣いや態度など、相手を思いやり、尊重した丁寧な対応であるよう常に心がけている。	管理者は、職員の利用者に対しての言葉遣いや態度に関しては、厳しく指導しています。自分では、年長者として敬っているつもりでも、第三者が聞いたりした時にどうか、ということのを常に考え、丁寧な対応となるように心懸けています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ生活の中で自己選択できる場面を作るようにしている。本人が希望や思いを表現できるような話かけなどにも配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分に合わせて生活できるように支援している。居室で好きなことができ、落ち着いた時間が持てるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用できるよう付き添いをしたり、外出が困難な場合は訪問美容を利用し好みの髪型に出来るよう配慮している。好みの装いが出来るようショッピングの機会を作ったり、家族からも協力が得られている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食や旬のものを提供することで季節を感じ「食」を楽しんでもらえるように支援している。利用者と職員が同じテーブルで食事を摂り、準備や片付けも一緒に行っている。	食材は生協で1週間分まとめて注文します。献立は利用者の意見を聞きながら職員が考えます。便秘予防にフルーツヨーグルトが昼食後に出されるなど、工夫をしています。五目いなりの献立の時は、油揚げにご飯をつめるのを利用者が手伝ったりしました。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	それぞれの食事量を記録して、カロリーや塩分量も適切な量となるよう配慮している。水分量も過不足がないよう心がけ、不足がちな方には個々に応じ好みの物を提供するように配慮している。		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	毎食後口腔ケアが出来るよう支援している。個々の能力に応じて、見守り又は介助で行い、状態に合わせて介護用品を利用するなどして、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	それぞれの排泄パターンを把握し、個々にあったタイミングでトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう努めている。	介助の必要な入居者には、タイミングを外さない支援に努めており、自分でトイレに行ける入居者には、自立が継続できるように、声かけを行っています。その際の職員の態度や言葉づかいについて、相手の尊厳を損ねないように気をつけています。	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	食事に食物繊維の多い物や果物、ヨーグルトを取り入れていれ、便秘傾向にある人には特に十分な水分摂取が出来ているか確認をする。散歩や体操、家事などで身体を動かす機会を作り、便秘の予防を図っている。		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	入浴日は決めているが本人の意思を尊重し、無理強いすることなく希望する時間帯に入浴できるようにしている。入浴を拒む場合には時間をおいて対応するなどし、清潔保持に努めている。	入居者全員が1日おきに入浴できるように予定を立て、職員は1対1で対応し、一人30分ぐらいの時間をとっています。毎朝バイタルチェックを行い、また入浴による血圧の急上昇を防ぐために、湯の温度にも注意しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠が得られるように、午前中は体操、掃除、散歩などで活動的に過ごし、午後から夜にかけては職員の声のトーンを落とす等穏やかな流れを作り、生活のリズムに配慮している。個々の疲労度や季節に合わせて休息を取り入れている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬説明書を個々のチャートにファイルし、指示通りの服薬が出来るように支援している。薬の目的や副作用についてはミーティングでも確認し、処方の変更時には連絡帳に記入し情報を共有している。服薬確認後はチェック表に押印し、確実な服薬が出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ役割を持ってもらい、喜びのある生活が送れるよう支援している。個別での外出や大正琴、習字、フラワーアレンジメント等ボランティアによる楽しみごとに参加できるように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩だけでなく買い物、喫茶店などへ出掛ける機会を持てるようにしている。遠方への外出は家族への協力も求め、実現できるよう努めている。	駅前商店街に近い便利な場所ですが、建物の周辺は静かで、裏手の川には鯉や鴨が生息しています。川沿いを散歩したり、近くのスーパーやコンビニに買い物に行くなど、できるだけ外気に触れるように支援しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの能力の応じ小遣いを所持してもらい、お金を持っている事での安心感を得たり、本人の希望に沿って買い物出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるように分かりやすい場所に置いており、掛ける際には必要に応じて介助も行っている。携帯電話の持ち込みも自由としている。年賀状、暑中見舞い等のやり取りができるよう支援する体制はある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や、利用者の折り紙作品を共用空間に飾っている。空間の使用目的によって光の種類を替え、エアコンや扇風機、暖房器具を使用し心地良く過ごせるよう配慮している。	食堂兼居間の隣にデイルームがあり、家族との面談や、習字、フラワーアレンジメントなどのお稽古の会場としても使用されます。廊下が広く、ここで体操やゲームをしています。共用空間の清掃は担当を決めて、毎朝いっせいに行っています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやデイルーム、廊下に少人数で話せるようソファ・椅子・テーブルを配置し、自由に使用できるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた家具や小物などを持ち込んで頂き、自宅と同じ雰囲気居心地良く過ごせるようにしている。家具の配置については安全性も考慮し工夫している。	ダンス、テレビ、ぬいぐるみなど、各自で好みのものを持ち込んでいます。居室担当者が、衣類の整理や衣替えを手伝い、本人および家族の相談相手となっています。自立している利用者が多く、居室の清掃は基本的に自分で行うようにしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレはさりげなく、且つ分かりやすいよう表示の工夫をしている。廊下や玄関の適切な場所に手すりを設置している。理解力の低下が見られても、さりげない支援をすることで出来るだけ安全で自立した生活が送れるように留意している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会には入会しているが、交流が十分にできているとは言えない状態である。町内会をはじめ、地域の方々ともっと日常的な関わりを持つ必要がある。	町内会や近所の方々と、顔なじみになる	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の行事に積極的に参加する。 ・運営推進会議の内容を工夫し、地域の方も気軽に参加できるようなものにする。 ・地域の方が参加できるような行事をホームで企画する。 	6ヶ月
2	49	外出の機会が少ない。一人ひとりの希望に合わせた外出を支援することが出来ていない。	散歩以外の外出の機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・外食や喫茶、お花見等希望に合わせた外出を考える。 ・体力に合わせ少人数での外出の機会を増やせるようにする。 ・全ての利用者が年一回以上は散歩以外の外出ができるようにする。 	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。